★曇りのち晴れ★

哀歌

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
★曇りのち晴れ★

【Ｎコード】
Ｎ１００７Ｋ

【作者名】
哀歌

【あらすじ】
ある日神楽は曇りのはずだった
天気の日に外へ出る。

（前書き）

沖神苦手な方
ご遠慮ください！

「にしても、今日はいい天気アルな！」
神楽は曇りの日に外へ出ていた。
夜兎族の神楽にとっては曇りというのは最高の天気なのである。

神楽は人気の少ない公園に来ていた。
「あー、公園に来たのはいいけど暇アルなー・・・」
ぶつくさといってると急に体が熱くなった。
「な・・・何アルか、体が熱いネ」
ふと上を見るとなんとギラギラとした太陽が出ていたのだ。

「何だヨ・・・天気予報外れてんじゃねーかヨ・・・」
今日神楽は傘を持ってきていなかったことを後悔した。そうしてる間に意識が遠くなって・・・。

「あ、・・・まずい・・アル・・」
そのまま意識を失ってしまった。

「ん・・・？」
目が覚めるとそこは木の陰の中だった。とても涼しかった。

「でも一体誰が・・・」
そして神楽は何かによっかかっていたらしく、横を見た。するとそこには・・・。

「ぬぁ！？サド！？」
そこには沖田総悟がいたのだ。

「？チャイナ目ぇ覚めたんですかィ」
「何でお前がここに！？」
「公園に倒れてるのみてここまで連れてきてやったんでさァ」
「冗談じゃないネ！もういいアル！」
神楽はそういって立とうとしたが、

足元がふらついて沖田の肩にボスッとよっかかった。
「無理すんじゃねーやィ」
「〜〜っ・・・」

仕方なく神楽はそのままでいた。
しかしなぜだろう。不思議と嫌ではなかったのだ。

そして夕方。
「もうこんな時間アル」
「もう平気だよな、それじゃ俺はこれで」
「あっ・・・サド！！！」
神楽が叫ぶと沖田が振り向いた。

「そっその・・・っあっありがとうナ！」
そう言うと沖田は軽くフッと笑いながら神楽に近づいてきた。
「なっ何アル・・・・」

神楽が言い終わる前に沖田が神楽の唇にキスをした。
「今日のお礼代でさァ、じゃあな」

「っ！！？」
そういって沖田は去っていった。
そして神楽はと言うと・・・。

「っこっの・・・ドSがぁーー！」

（後書き）

ぐっ・・・下手だったらすみません！；；；
こういうのってかなり難しい・・・。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n1007k/

★曇りのち晴れ★

2010年10月11日01時40分発行